

平成 28 年 5 月 21 日 (土) ~ 22 日 (日)

自然体験活動 教職員講習会

活動報告書

5月晴れの気持ち良い2日間の中、主催事業『自然体験活動教職員講習会』を開催しました。参加者は、神奈川県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の先生、その他に学童の先生にお集まりいただきました。

朝10時の「開講式」では、まだまだ緊張した面持ちの参加者。そのあとの「班・係別打合せ」では、自己紹介を通して徐々に打ち解けあっていきました。

さらに「であいのゲーム」では、じゃんけんや歌を交えたゲームを通して、笑顔の輪がどんどん広がっていきました。気づけば、あっという間に最初の緊張感は、無くなっていました。参加者には、ゲームの持つ奥深さを感じていただけたと思います。



心と身体がほぐれたところで、昼食タイム。天気が良いので、外で和気あいあいと食べているところもありました。

お昼後は、「課題解決のグループワーク」。課題は、ランダムに並べられた1から30番の札を順番に踏んで、タイムを競う活動。3回のチャレンジで、一番早いタイムを目指します。どうやれば早くなるか、「あ~でもない、こ~でもない」と意見が交わされていきます。その結果、回を重ねるごとにタイムはどんどん縮み、達成感も生まれました。



その後は、選択した3つのプログラムに分かれて、活動を行いました。

「①HOW TO キャンプファイヤー」では、エールマスターやファイヤーキーパーについて学びました。薪組の方法、トーチ棒の作り方、ゲームの展開の仕方などを体験しました。知っているのと、実際に体験するのとでは大違い。子どもたちを引率する時のイメージが掴めた様子でした。





「②学級経営で活かせる冒険教育プログラム」では、グループで課題にチャレンジしていきます。時にはアイデアを考え、時には声を掛け合いながら、時には手を差し伸べながら、仲間との信頼関係を築いていきました。協力する大切さを目に見える形で体験してもらうことができました。参加者同士の絆がより一層深まった活動となりました。



「③雨天でも楽しめる野外力検定」では、身近な素材を使って『野外力』を試す活動を行いました。具体的には、調味料を匂いだけで見分けるものや薪を持って重さを当てるなど五感を使った活動を行いました。その他にロープワークや鉛筆をナイフで削る野外スキルを身に付ける活動を行いました。子どもたちに指導する前に、まずは体験してみることが大事。プログラム体験後は、実際に指導者と参加者に分かれて、指導する体験も行いました。指導者として気をつけなければいけない点にも気づくことができました。



夕食を食べた後は、ナイトプログラムの「キャンプファイヤー」。今日の今日で考えた各班のスタンプは、どこもクオリティの高いものに仕上がっていました。歌あり、ダンスあり、参加者の巻き込みゲームありで、とにかく大盛り上がりの時間でした。「子どもたちにも、こんな楽しいキャンプファイヤーを体験させたい！」と参加者からは大満足のコメントをいただきました。キャンプファイヤーの良いイメージを持って帰っていただけたと思います。



気持ち良い天気の中、「朝のつどい」から2日目が始まりました。テーマソングを歌えば、朝から元気が出ました。朝食後は、宿泊したロッジの清掃を行い、そして「基礎から学ぶ野外炊事」。今回は、火起こし道具を使って、火を起こすところからスタートしました。火がつくポイントは、協力。「1・2、1・2・・・」、「ハロー・キティー、ハロー・キティ・・・」と班ごとに色んな掛け声が聞こえてきます。息が合ってくると、火種が出来始めました。出来た火種を大事そうに育て、薪に移していきます。失敗を繰り返し、繰り返し、やっとの思いで点いた火で作ったカレーは、いつもより美味しくできました。



片づけを行った後は、班ごとに1泊2日の「ふりかえり」を行い、終了となりました。今回の講習会では、たくさんの笑顔に出会うことができました。人に「楽しい！」を伝えるためには、まずは自分自身が「楽しい！」を体験することがとても大事です。ぜひ今回得た体験を、学校で利用する際に子どもたちに伝えていってほしいと思います。

【文責：高橋】